

# 北琉球硫黄鳥島方言の埋め込み疑問文

—中間報告—

ハイス・ファン＝デル＝ルベ

(Gijs van der Lubbe)

/χeis̥ fan der løbə/

沖縄国際大学

日本学術振興会外国人特別研究員

## 硫黄鳥島



2.5 km<sup>2</sup>の火山島。

徳之島の西約 65 キロ東シナ海に位置する。



1903 年に久米島へ移住。

## 硫黄鳥島方言

- ・ 北琉球語群に属する。
- ・ 久米島町字鳥島でコミュニティー言語である。
- ・ 那覇市にも話者集団。
- ・ 社会的三言語併用。
- ・ 日本語と沖縄語（久米島諸方言）との言語接触。

## 北琉球語群における埋め込み疑問

- ・ 焦点化助詞 *ga* と接辞 *-ra* (奄美 *-ro:*) による‘係り結び’構造。
- ・ 沖縄島や沖永良部島 *ga/-ra* 構造からできたマーカー (沖縄 *-gasura*、沖永良部 *-gara*) ができ、simplex なマーカーへの移行。日本語の「か」との structural convergence (構造収斂<sup>しゅうれん</sup>) か。

## 鳥島方言における埋め込み疑問

- 1) ga/-i (=ga/-ra 構造)
- 2) ba
- 3) -se:

## 1) ga/-i

ga/-i 構造に由来する埋め込み疑問のマーキングが3つある。

- a) 焦点化助詞 ga + 接辞-i をとった動詞・形容詞・コンピュータ
- b) 名詞 + ge:
- c) 動詞尾略形 + 接辞 gasui (新)

### 1) ga/-i

動詞・形容詞述語の場合：

	非過去		過去	
	普通形	ga 焦点化	普通形	ga 焦点化
作る	tsukuju-N 作る-IND	tsukui=ga su-i 作る.INF=ga する-i	tsuku-ta: 作る-PST	tsukui=ga sa-i 作る.INF=ga する.PST-i
からい	haisa-N 辛い-IND	haisa=ga a-i 辛い.INF=ga ある-i	haisu-ta: 辛い-PST	haisa=ga a-ta-i 辛い.INF=ga ある-PST-i



### 1) ga/-i

テオリ相当形式やテアルキオリ相当形式の述語の場合：

	普通形	ga 焦点化
テオリ相当	tsuku-tu-N	tsuku-ti=ga wu-i
	作る-CONT-IND	作る-MED=ga いる-i
テアルキオリ相当	tsuku-te:tsu-N	tsukui=ga se:tsu-i
	作る-PROG-IND	作る-INF=ga する.PROG-i

### 1) ga/-i

否定形の述語の場合：

	普通形		ga 焦点化
	否定形 1	否定形 2	
作らない	tsuku-waN 作る-NEG	tsuku-wamUN 作る-NEG	tsukuwan=ga a-i 作る-NEG=ga ある-i
からくない	hai-ko: na:N 辛い-ADV.TOP ない	hai-ko: na:mUN 辛い-ADV.TOP ない	hai-ko: na:N=ga a-i 辛い-ADV.TOP ない=ga ある-i

## 1) ga/-i

### 述語以外の焦点化

I) 疑問詞疑問文においては、ga が疑問節につく。

1) taro:=a ma:=nke:=ga ?ndʒa-i wa:-jamun=ruwa

太郎=TOP どこ=ALL=ga 行く.PST-i 分かる-NEG=DM

太郎は、どこに行ったのか、分からない。

2) nu: sa-ttu=ga no:-ta-i wa:-jamun=ruwa

何 する.PST-CSL=ga なおる-PST-i 分かる-NEG=DM

何でなおったのか、分からない。

1) ga/-i

II) 選択疑問においては、ga が選択肢につく。

3) aje: <hiko:ki>=nka:=ga tja-i,

3P.TOP 飛行機 = ABL = ga 来る.PST-i

huni=nka:=ga tja-i wa:-jan=sa:

ふね = ABL = ga 来る.PST-i 分かる-NEG=DM

彼は、飛行機で来たのか、舟で来たのか、分からないね。

## 1) ga/-i

そのほかの ga/-i の用法：

①疑いの疑問文。話し手が自分に対して問う質問。

4) taro:=a ma:=Nke:=ga      ?ndʒa-i  
太郎=TOP どこ=ALL=ga      行く.PST-i  
太郎は、どこに行ったのだろうか？

②因果関係の不確定を提示する原因・理由節。

- 5) ami=nu hu-i=ga sa-i, mitfi=nu nra-ttu-fi=o:  
雨=SUB 降る.INF=ga する-i 道=SUB ぬれる-CONT-NML=DM  
雨が降ったのか、道がぬれている。

ハイス・ファン＝デル＝ルベ

## 1) ga/-i

b) ge:

マーカー-ge:は、焦点化助詞 ga+コプラ-i の融合によってできた。

N=ga ja-i → ge:

ge:は、名詞が述語になる埋め込み疑問文の場合に用いられる。

6) uje: nu:=ge: wa:-jan=sa:

それ.TOP 何=ge: 分かる-NEG=DM

それは、何なのか分からないね。

7) anu hitfo: ŋimantsu=ge: tabintsu=ge: wa:-jamun=ruwa

あの 人.TOP 鳥島の人=ge: よそ者=ge: 分かる-NEG=DM

あの人は、鳥島の人なのか、よそ者なのか分からない。



## 1) ga/-i

b) ge:のそのほかの用法：

①X=ge: Y=ge: : X=ge: Y=ge:は、X と Y のうちのどちらかひとつであることをあらわすのに用いられる。

8)    susuwa:=ge:        sa:dzi=ge:        mu-ttsu-ssa:  
      雑巾=ge:         手ぬぐい=ge:        持つ-CONT-DM

雑巾だか手ぬぐいだかを持っている。

X=ge: nu:=ge: 「X か何か」は、X がはっきり特定できない場合に用いられる。

9) susuwa:=ge: nu:=ge: mu-ttsu-ssa:

雑巾=ge: 何=ge: 持つ-CONT-DM

雑巾だか何だかを持っている

## 1) ga/-i

b) ge:のそのほかの用法：

②不定詞：

疑問詞に ge:がつき、不定代名詞になる。

10) tai=ge: tfa-ſi=o:  
誰= ge: 来る.PST-NML=DM  
誰か、来たんだよ。

1) **ga/-i**

c) -gasui :

ga/-i 構造の再分析によってできた、新しい形式。沖縄語の-gasura の影響か。

	非過去		過去	
	普通形	埋め込み疑問形	普通形	埋め込み疑問形
伝統的	tsukuju-N 作る-IND	tsukui= <u>ga su-i</u> 作る.INF=ga する-i	tsuku-ta: 作る-PST	tsukui=ga sa-i 作る.INF=ga する.PST-i
新		tsukuju- <u>gasui</u> 作る-gasui		tsuku-ta- <u>gasui</u> 作る-PST-gasui

1) **ga/-i**

c) -gasui :

11a) taro:=a ke:-ta-gasui wa:-jamuN=ruwa

太郎=TOP 帰る-PST-gasui 分かる-NEG=DM

太郎は、帰ったかどうか分からない。

沖縄語（久米島泊・謝名堂方言）

11b) taro:=ja ke:-ta-gasura waka-raN=ro:

太郎=TOP 帰る-PST-gasura 分かる-NEG=DM

太郎は、帰ったかどうか分からないよ。

## 2) ba

動詞・形容詞・コンピュータの終止形-N や否定形-N につく。肯否疑問のみにおいて用いられる。

12) wu-N=ba      wan=ba      wa:jan=sa:  
いる-IND=ba      いる.NEG=ba      分かる-NEG=DM  
いるかいないか分からないね。

13) jaki-tu-N=ba      mi-tfi      mi:  
焼ける-CONT-IND=ba      見る-MED      見る.IMP  
焼けているかを見てください。

ba による埋め込み疑問文においては、焦点化助詞 ru が用いられる。

14) aN=ga=ru      sa-N=ba      a=ga=ru      saN=ba  
1P=SUB=FOC      する.PST-IND=ba      3P=SUB=FOC      する.PST-IND=ba

ubi-tu-waN=sa:

覚える-CONT-NEG=DM

私がやったのか、彼がやったのか、覚えていないね。

## 2) ba

ba のそのほかの用法：  
肯否疑問の疑い。

15) anʃi re:-N=ba?

そう COP-IND=ba

そうかな？

16) taro: ju-raise:, tsu:-N=ba?

太郎 呼ぶ-COND 来る-IND=ba

太郎を呼んだら、来るかな？



## 2) ba

ba とことなり、形式名詞 ba: 「わけ」もある。連体形につく。

17) taro:=N    tsu:-i    ba:    re:-N=na?

太郎=も    来る-ATT    わけ    COP-IND=Q

太郎も来るわけ？

### 3) -se:

-se:による埋め込み疑問文は、データが少ない。現段階では、すべての用例は、nu:wa・nu:se:「なぜ」による疑問詞疑問であり、述語は、否定形をとっている。

-se:は、否定形-Nにつく。

18) nu:wa      fu:N-se:      wa:-jan=sa:  
なぜ      来る.NEG-se:      分かる-NEG=DM

なぜ来ないか分からないね。

### 3) -se:

-se:のそのほかの用法：

埋め込み疑問でない、疑問詞疑問文においても用いられる。

19) nu: wa:-jan-se:?

何 分かる-NEG-se:

何が分からないのか？

肯定形の述語にも用いられ、その場合は、尾略形につく。

20) nu:wa ke:ju-se:?

なぜ 帰る - se:

なぜ帰るのか？

-se:は、準名詞接辞-fiに由来か。

21) taro:=ga tsu:-fi fi-ttsu-N=na?

太郎 = SUB 来る - NML 知る - CONT-IND = Q

太郎が来るのを知っているか？

## まとめと今後の課題：

### 硫黄鳥島方言の埋め込み疑問文の特徴：

- 1) ga/-i 構造の埋め込み疑問文としての使用は、北琉球においてあまねくみられる。
- 2) ba は、肯否疑問文専用の埋め込み疑問形式として特徴的である。

3) ga/-i と ba は、疑いをあらわすのにも用いられる。

22) 「太郎は来るかな...分からないね」から？

a) taro:=a    tsu:=-N=ba...    wa:=-jan=sa:

太郎=TOP 来る-IND=ba    分かる-NEG=DM

b) taro:=a    tʃi:=ga    su-i...    wa:=-jan=sa:

太郎=TOP 来る-INF=ga    する-i    分かる-NEG=DM

23) 「太郎は来るかどうか分からないから、訊いてみよう」

- a) taro:=a    tsu:=-N=ba    wa:-jan-base:    tu:-ti    nma=i:  
太郎=TOP 来る-IND=ba    分かる-NEG-CSL 問う-MED 見る-COH=DM
- b) taro:=a    tʃi:=ga    su-i    wa:-jan-base:  
太郎=TOP 来る-INF=ga    する-i    分かる-NEG-CSL
- tu:-ti    nma=i:  
問う-MED 見る-COH=DM

鳥島方言における埋め込み疑問文に格助詞も焦点化助詞も直接つかない。

24a) × ta:=ga=ga      dzin nusu-ra-i=ni      mutfiko:sa-tti..  
誰=SUB=ga      金      盗む-PST-i=DAT      気がとられる-MED  
誰がお金を盗んだのかに気がとられた。

24b) ○ ta:=ga=ga      dzin nusu-ra-i...      ui=ni      mutfiko:sa-tti..  
誰=SUB=ga      金      盗む-PST-i      それ=DAT      気がとられる-MED  
誰がお金を盗んだのか。それに気がとられた。



## 今後の課題：

- 1) wa:jamuN 「分からない」のみならず、「するかどうか見てみる」や「しようかすまいか迷っている」などのような埋め込み疑問文も、「なぜそうするか分かる」のような、肯定述語に埋め込まれた疑問文も調査する必要がある。
- 2) -se:の用法の詳細を調査する必要がある。

## 参考文献：

- かりまたしげひさ；島袋幸子（2007）「沖縄方言のとりたてのくつつきとかかりむすび：今帰仁謝名方言と具志川安慶名方言のばあい（おぼえがき）」、『日本東洋文化論集』(13): pp. 1-29
- 白田理人（2020）「奄美大島今里方言の埋め込み疑問文について」『南島文化』（第42号）：pp. 153-166
- 竹村明日香；金水敏（2013）「中世日本語資料の疑問文－疑問詞疑問文と文末助詞との相関－」『日本語疑問文の通時的・対照言語学的研究 研究報告』（1）：pp. 3-20
- Tomioka, Satoshi (2020) Japanese embedded questions are nominal: Evidence from quantificational variability effect, *Journal of Japanese Linguistics*, vol. 36, no. 1, 2020, pp. 121-156. <https://doi.org/10.1515/jjl-2019-2020>
- Niinaga, Yuto (2014) *A Grammar of Yuwan, a Northern Ryukyuan Language*, unpublished PhD thesis, University of Tokyo
- Van der Lubbe, Gijs (2017) Japanese-Northern Ryukyuan Language Contact and Structural Convergence: The Case of Embedded Interrogative Constructions, *Japanese/Korean Linguistics*, Volume 24, pp. 301-314
- Winford, Donald (2003) *An Introduction to Contact Linguistics*, Malden: Blackwell Publishing
- Heath, J.G. (1984) Contact and Language Change, *Annual Review of Anthropology*, Vol. 13 (1984), pp. 367-384